平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月9日

上場会社名　美津濃株式会社　　上場取引所　東 大
コード番号　8022　URL　http://www.mizuno.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 水野　明人
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理財務担当　(氏名) 福本　大介　TEL 06-6614-8465

四半期報告書提出予定日　平成23年11月10日　配当支払開始予定日　平成23年12月1日
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	78,051	2.2	4,359	5.7	3,898	2.8	2,230	25.1
23年3月期第2四半期	76,357	0.2	4,122	80.9	3,791	54.2	1,782	91.3

(注)包括利益　24年3月期第2四半期　1,684百万円　(―%)　23年3月期第2四半期　5百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	17.91	―
23年3月期第2四半期	14.31	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	123,571	76,194	61.5
23年3月期	128,471	75,188	58.4

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　76,043百万円　23年3月期　75,020百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	5.00	―	5.00	10.00
24年3月期	―	5.00			
24年3月期(予想)			―	5.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	152,000	1.3	5,000	8.7	4,500	0.7	2,700	△4.9	21.67

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	132,891,217 株	23年3月期	132,891,217 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	8,321,440 株	23年3月期	8,312,138 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	124,575,008 株	23年3月期2Q	124,600,120 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．　当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．　サマリー情報（その他）に関する事項 …… 5
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 5
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 5
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 5
（４）追加情報 …… 5
３．　四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 8
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 9
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（４）セグメント情報等 …… 10
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 11

※　なお、第２四半期決算の補足説明資料を当社ホームページに掲載する予定です。

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間（平成23年４月１日～平成23年９月30日）における当社グループの経営成績は、売上高は16億9千3百万円増収（2.2％増）の780億5千1百万円となり、営業利益は増収並びに販売費及び一般管理費の抑制により2億3千6百万円増益（5.7％増）の43億5千9百万円となりました。経常利益は為替差損の増加など営業外損益が悪化したものの営業増益により吸収し1億7百万円増益（2.8％増）の38億9千8百万円となり、四半期純利益は経常増益、特別損失の減少及び法人税等負担の軽減などにより4億4千8百万円増益（25.1％増）の22億3千万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

① 日本

前第２四半期連結累計期間に比べ、売上高は16億3千6百万円増収（3.0％増）の571億8百万円となり、営業利益は増収により7千万円増益（2.6％増）の27億7千3百万円となりました。

日本経済は、東日本大震災の影響により低迷していた景気が徐々に持ち直しつつあったものの、電力供給や復興増税計画に対する不安感が、企業活動や個人消費に重くのしかかり、原油価格上昇やさらなる円高の進行もあって、予断の許されない厳しい経済環境となりました。

一方で、健康やスポーツに対する人々の関心は増大し、そのような志向の高まりが加速した結果、身近で手軽にできるスポーツとしてランニング愛好者の数は引き続き増加しました。また、当社がオフィシャルスポンサーを務める「大阪マラソン２０１１」の開催日が近づくにつれ、マスコミはじめ各方面での話題に大きく取り上げられるなど、市民ランナーの期待感は膨らんでいきました。

このような情勢のもと、当社グループは、ランニングシューズの＜ミズノ ウエーブ＞機能の優秀性を改めて訴求すべく、積極的な広告宣伝やプロモーション活動を展開し、ランニングシューズ市場での存在感を一層高める仕掛けを行いました。なかでもフルマラソン参加を意識するランナーに向け投入した＜ウエーブ マーキュリー オーラ＞は、徹底した軽量設計とスムーズな蹴り出しにこだわった新設計の前足部ソールを開発の主眼におき、広く好評を得て販売額を伸ばしました。

サッカーシューズでは、「軽快なドリブル突破」をコンセプトとした＜スーパーソニック＞シリーズが、巧みなボールコントロールと切り返し時のグリップ力を高めるための新構造アウトソールと新素材アッパーを採用し、ジュニア向けも含め販売額を大きく伸ばしました。

ベースボール品は、高価格帯のグラブやバットの販売は総じて振るわなかったものの、スパイクシューズやユニフォームは堅調に推移しました。特に、超硬合金金具をアウトソールに埋め込み靴底と一体成型で耐久性・軽量感・突き上げ防止に優れた＜グローバルエリート Ｌ シリーズ＞は、その設計思想がユーザーに認められ売上を伸ばしました。

ゴルフ品は、クラブなどの高価格品が東日本大震災以降、購買意欲の低下の影響を最も大きく受け厳しい市場環境が続きました。そのような状況のなかで、防水性と透湿性を兼ね備えた新機能ゴルフシューズ＜ミズノ ドライスタイル ０２３＞シリーズは、多くのユーザーの要望にこたえて開発され、雨濡れに強くシューズ内部は快適な状態をキープする特長が好まれ売れ行きは順調に推移しました。

ウォーキング関連では、「わらじ」の歩きやすさの知恵とミズノ独自のウォーキング理論を融合させたウォーキングサンダル＜ウエーブ リバイブ Ⅱ＞が、夏季の節電対策も追い風となり、売れ行きは第２四半期連結累計期間を通じ好調でありました。

また、そのほかの商品では、＜じつは！腹筋くんライト＞が、「ながら」トレーニングの手軽さが受けてホームエクササイズ愛好家で好評となり、出荷台数は大幅に増加しました。

② 欧州

前第２四半期連結累計期間に比べ、売上高は8千万円増収（1.4％増）の57億3千5百万円となり、営業利益は増収及び売上総利益率の改善などにより4千4百万円増益（14.8％増）の3億4千6百万円となりました。

欧州は、ギリシャの信用不安に端を発した欧州債務危機が、欧州連合（ＥＵ）加盟諸国の財政状態に悪影響を及ぼし、域内金融機関の経営を悪化させました。域内の景気の先行きは不透明な状況となり、スポーツ品市場でも購買を控えるムードが広がるなど消費抑制への動きが見られました。

このような情勢のもと、当社の欧州各支店の事業活動においては、収益の柱であり欧州域内でも参加人口が増加傾向を見せているランニングシューズの需要が増大しました。市場では主力モデルである＜ウエーブ ライダー １４＞に人気が集まり、順調に販売額を伸ばしました。また、ゴルフ品では、アドバイザリープロ契約スタッフであり、世界ランク１位をキープしているルーク・ドナルド選手（英国）が米ＰＧＡツアーで好調を維持し、世界メジャー大会でも上位に入賞するなど活躍が目立ち＜ミズノ＞アイアンの優秀さをアピールしました。グローバルモデルである主力の＜ミズノ ＪＰＸ ８００＞アイアンや＜ミズノ ＪＰＸ ８００ Ｐｒｏ＞アイアンは、カスタムフィッティングによる販売が堅調でありました。

③ 米州

前第２四半期連結累計期間に比べ、売上高は3千6百万円増収（0.3％増）の112億4千2百万円となり、営業利益は売上総利益率が悪化したものの、増収並びに販売費及び一般管理費の抑制により1億2千7百万円増益（14.4％増）の10億1千2百万円となりました。

米国経済は米国債の格下げに見られるように、政府の財政状態の悪化が深刻化し、景気への悪影響が鮮明に表れました。また、欧州諸国の債務危機による米金融機関の損失拡大が報じられるなど、米政府の経済政策を懸念する空気が支配し始めました。

このような情勢のもと、当社グループの米州における事業の成果は、引き続き収益の柱であるランニングシューズが専門店チャネルを中心に販売額を伸ばし業績を牽引しました。なかでも、主力の＜ウエーブ ライダー＞シリーズに加え、＜ウエーブ インスパイア＞シリーズも多くのシリアスランナーに支持され販売が好調に推移しました。

ベースボール品は、景気減速にともないユーザーの低価格志向が進んだものの、野球グラブをはじめ概ね堅調に推移しました。ゴルフ品は、市場の縮小が止まらず苦戦を強いられましたが、カスタムフィッティングシステムによる受注販売が上向き、主力モデル＜ミズノ ＪＰＸ ８００＞アイアンをはじめ、専門店チャネルでの＜ミズノ＞ゴルフ品の需要回復に努めた結果、販売額が増加し収益性は改善しました。

④ アジア ・オセアニア

前第２四半期連結累計期間に比べ、売上高は5千9百万円減収（1.5％減）の39億6千4百万円となり、営業損益は売上総利益率の改善や償却費負担の減少などにより2億円改善し、1億9千2百万円の営業利益に転じました（前年同期は7百万円の営業損失）。

台湾は、第２四半期連結累計期間を通じ、比較的良好な景気環境のもと、需要が拡大しているランニングシューズに加え、アスレティックウエアやスポーツアパレルの販売が順調に推移しました。

中国では、景気のスローダウン傾向が見られたものの、依然として高い経済成長率を背景に消費動向は概ね堅調でありました。スポーツ品市場では、国内ブランドを好んで選ぶ傾向が高まり、当社グループの中国内販売額は減少しましたが、ランニングシューズやスポーツアパレルにおいて高品質で高付加価値商品の販売に注力したことや、販売店網を整備したことにより利益率が改善しました。

オーストラリアにおいては、豪ドルの対米ドル上昇加速により市場での価格競争が進みました。このため、欧米からの並行輸入や個人によるインターネット購入が増加し、当社グループの事業展開に影響を与えました。このような厳しい市場環境のもと、ランニングシューズやゴルフクラブなどの主力商品を中心にブランド訴求と拡販に努めたこともあって、収益は前年同期並みを確保しました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ48億9千9百万円減少し1,235億7千1百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少53億2千3百万円、商品及び製品の減少16億5百万円でありました。一方で、現金及び預金は30億3千2百万円増加しました。

負債は、前連結会計年度末に比べ59億5百万円減少し473億7千7百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少35億2千9百万円、短期借入金の減少34億2百万円でありました。一方で、長期借入金（１年内返済予定の長期借入金を含む）は10億円増加しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ10億5百万円増加し761億9千4百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加16億7百万円でありました。一方で、繰延ヘッジ損益の悪化により4億2千4百万円減少しました。以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の58.4％から61.5％へと3.1ポイント上昇しました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年３月期の連結業績予想につきましては、最近の業績の動向をふまえ、平成23年５月19日公表の通期の連結業績予想数値を修正しております。

なお、当該予想数値の修正に関する事項は、本日（平成23年11月９日）公表の「平成24年３月期第２四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照願います。

２．サマリー情報(その他)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第２四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（４）追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第１四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月４日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月４日）を適用しています。

退職給付引当金

一部の国内連結子会社は、平成23年６月に退職一時金制度について確定拠出年金制度等へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第１号）を適用しています。

本移行に伴う影響額は、特別利益として56百万円計上されています。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,461	16,494
受取手形及び売掛金	32,763	27,440
有価証券	755	756
商品及び製品	22,866	21,261
仕掛品	817	992
原材料及び貯蔵品	1,198	1,675
繰延税金資産	2,573	1,763
その他	4,193	4,441
貸倒引当金	△988	△941
流動資産合計	77,641	73,884
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,135	18,794
土地	15,175	15,174
その他（純額）	2,530	2,467
有形固定資産合計	36,841	36,436
無形固定資産	874	959
投資その他の資産		
投資有価証券	7,139	6,841
繰延税金資産	2,465	2,655
その他	6,669	5,868
貸倒引当金	△3,160	△3,073
投資その他の資産合計	13,114	12,291
固定資産合計	50,829	49,687
資産合計	128,471	123,571

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,695	14,165
短期借入金	5,620	2,218
1年内返済予定の長期借入金	6,000	3,000
未払法人税等	625	494
返品調整引当金	237	237
その他	8,577	8,346
流動負債合計	38,755	28,462
固定負債		
長期借入金	5,800	9,800
繰延税金負債	194	193
再評価に係る繰延税金負債	3,287	3,287
退職給付引当金	1,338	1,403
資産除去債務	249	250
その他	3,657	3,979
固定負債合計	14,527	18,915
負債合計	53,282	47,377
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,137	26,137
資本剰余金	31,197	31,197
利益剰余金	25,815	27,422
自己株式	△3,022	△3,025
株主資本合計	80,128	81,732
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	668	562
繰延ヘッジ損益	△492	△916
土地再評価差額金	△1,498	△1,498
為替換算調整勘定	△3,785	△3,836
その他の包括利益累計額合計	△5,107	△5,689
少数株主持分	168	150
純資産合計	75,188	76,194
負債純資産合計	128,471	123,571

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
売上高	76,357	78,051
売上原価	43,469	44,572
売上総利益	32,887	33,479
販売費及び一般管理費	28,765	29,120
営業利益	4,122	4,359
営業外収益		
受取利息	85	79
受取配当金	103	107
その他	164	193
営業外収益合計	353	380
営業外費用		
支払利息	225	174
売上割引	252	242
為替差損	134	292
その他	72	131
営業外費用合計	685	841
経常利益	3,791	3,898
特別利益		
固定資産売却益	9	2
退職給付制度改定益	－	56
関係会社清算益	－	17
その他	－	0
特別利益合計	9	76
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	11	3
投資有価証券評価損	0	130
減損損失	4	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	141	－
早期退職特別加算金	132	－
災害による損失	－	12
その他	8	－
特別損失合計	301	146
税金等調整前四半期純利益	3,498	3,828
法人税等	1,683	1,558
少数株主損益調整前四半期純利益	1,815	2,270
少数株主利益	32	39
四半期純利益	1,782	2,230

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,815	2,270
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△584	△106
繰延ヘッジ損益	△744	△424
為替換算調整勘定	△482	△55
その他の包括利益合計	△1,810	△585
四半期包括利益	5	1,684
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△19	1,649
少数株主に係る四半期包括利益	24	35

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）セグメント情報等

Ⅰ 前第２四半期連結累計期間(自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				
	日本	欧州	米州	アジア・オセアニア	計
売上高					
外部顧客に対する売上高	55,472	5,654	11,206	4,023	76,357
セグメント間の内部売上高又は振替高	428	12	72	2,262	2,775
計	55,900	5,667	11,279	6,286	79,133
セグメント利益又はセグメント損失（△）	2,703	301	884	△7	3,881

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	3,881
セグメント間取引消去及びその他の調整額	240
四半期連結損益計算書の営業利益	4,122

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				
	日本	欧州	米州	アジア・オセアニア	計
売上高					
外部顧客に対する売上高	57,108	5,735	11,242	3,964	78,051
セグメント間の内部売上高又は振替高	595	8	20	2,468	3,093
計	57,704	5,744	11,262	6,433	81,145
セグメント利益	2,773	346	1,012	192	4,324

２．報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,324
セグメント間取引消去及びその他の調整額	35
四半期連結損益計算書の営業利益	4,359

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。